
銃声のなかで

karupisu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銃声のなかで

【Nコード】

N0890Z

【作者名】

karupisu

【あらすじ】

普通の日常生活を送っていた日向だが、ある日マフィアに撃たれたらしい
女の子を助けて大変なことに！？日向とマフィアな女の子が贈るアクションもの

プロローグ く謎の女の子

俺は日向。

周りの人は俺のことを怪物 モンスター と呼んでくる

まあ、略してモンスと呼んでくるのも多数いる

別に嫌われているわけでもない

俺は、周りの人より頭が悪い。だけど、怪物なみに運動神経がいいらしい。

（自分はこれでも普通なんだけどな）

自分の家族は皆頭がいい。その祖先も頭がよかつたらしい。

だから、家族のみんなが「異常気象だあゝ！」などとへんなことばかり言ってくる

（異常気象の使い方あたってるか？）

俺はそう思う。

最近はこの近くでマフィアみたいなのがいるらしいな

（なんで、この国にマフィアいるんだよ）

今、学校では集団登校や集団下校が行われている

俺は、参加しないけどな

どうせ、噂でしかないだろ…

タアーーーーン

ん？

今、へんな音しなかったか？

俺は、音のほうへ向かっていった。

近かったのですね着いた

そこには、足を怪我している女の子が… いる？

誰につけられた？ まさか、マフィアか？

マフィアの話は、本当… なのか？

だとしたら、冗談じゃない

だからと言って目の前の女の子は放っておけない

女の子をお姫様抱っこして走った
カッカッカッカ...

後ろから足音が聞こえるな

俺は後ろを向いた... すると

！！ リアルマフィアじゃねーか！！

しかも、銃向けちゃってるよ！！

ちよ、これ、ヤバくね？

え、なに？ これ何かの撮影？

タアーン

撃つてきやがった 人生そんな甘くないよねええええ！！

なんか、外国語つぶやいてるし ツイッターかお前たちは！！

仕方がない、危険だがちよっと屋根の上から行くか

ぴよーんと飛び乗った俺になんか銃を撃ちまくってるんだけどおお

（泣）

うお、これモノホン弾丸だ、かすり傷ついちゃったよ

でも、運が良かったのか、かすり傷だけで撒けた

ふううう

何とか、生きられたな

いや、冗談じゃなくて

！！

忘れてたああ

登校してる途中だった（泣）

そんな俺は腕時計を見た

..... 8:00

遅刻じゃねーか！！

なにが運がいいだ（泣）

屋根を飛び越えて俺は急いで学校へ行った

（どうすんだよ、この女の子...）

第1声 マフィアの謎

はああゝ

さつきは大変なことに巻き込まれたなゝ

学校についてからは、先生に怒られたあげく減点された

俺は今、先生の許可を得て病院にいる

あのことを思い出すたび、かすり傷が痛む。

あの子大丈夫かな？

女の子は病室で治療してもらってる

気が散るらしいので外で待っている

ガラガラ…

お、終わったらしいな

「弾が足に残っていたので手間取りました」

そう、言い残してどこか行った

やっぱ、撃たれてたのか

まあ、あの様子からすると大丈夫かな？

ガラガラ…

俺は病室に入った

彼女は、体を起こしていた

か、可愛い…

さつきは逃げるので精一杯だったのでよく見てなかったので

改めて見ると可愛いな

その顔に、黒髪のツインテールがよく似合ってる

「あの医者から聞いたわよ、あなたが助けてくれたんですってね」

「ああ…」

そう、会話して黙った

髪が、風に揺られている

「お前、名前は？」

「人に名前を聞く時は自分から名乗るもんよ」

「ごめん 俺は日向だ」

「私はマリア。さっきは助けてくれてありがとう。よろしくね」

「ああ…」

マリアか、外国人だな

「なんで、マフィアなんか？」

「私はマフィアの子なの」

！！ おいおい、へんなの助けちゃったよ

しかも、助けちゃったから完全に敵対しちゃうじゃねーか！！

「マジ？」

「マジよ」

ですよー まったく人生そううまくいかないもんなんだね（泣）

「それにしても、日本語ペラペラだな」

「お母さんに教えられてたの、子供の時から」

「？ お前子供だろ？」

「！！ 失礼ね、私は高1よ！！」

「は？ その身長で？」

「うるさい！！ 身長のこととは話さないで！！」

本当に怒ってるらしく、なんかオーラを感じる

「ま、その話は置いて、お前これからどうすんだよ？」

「？ あんたの家に泊まるにきまつてるじゃない。へんなこと言うわね」

は？ 決まってるじゃないっておい、だれがそんなに話を進展させた？

「なに？ まさかこのまま放置にしようとしてたわけ？ 無責任な人ね」

悪かったな、無責任で（泣）

「ということで、これからもよろしくね！日向！ って何泣いてんのよ」

「いや、これから大変なことになるなあって」

「あたりまえじゃない、助けたんだから最後まで責任持ちなさい」

「ま、このままだとまた、怪我しかねないからな。てか、なんでマフィアの娘がマフィアに狙われたんだよ？」

「家出したの」

出たでたよくある展開

「なんで？」

「お父さんみたいになりたくないの」

マフィアの娘もそんなこと言っただな。一つ発見だ

「私はもつと人の役に立ちたい」

うお、なんちゅう素直な子 見習ってほしいね、親も

タアーン

ん？聞いたことあるような音がしたぞ？

「銃声だわ！！」

そうそう、銃声… っておい！！

「お、おい危ないんじゃないか？」

「あ、あんた、あわてすぎよ」

「ちょ、逃げるぞ」

「ってどこから？ 逃げ場はないわよ」

「ある、つかまれ」

「そこ、窓よ！ ここは4階！ 無茶だわ！！」

「俺を信じる！！」

マリアがつかまって窓を開ける

ドアが開いた

マフィアが入ってきた

なんか、俺の行為に驚いてるな

銃を向けて「待て！！」などと言っているな

銃向けられて待つわけないだろ馬鹿かお前たちは！！

「いくぞー！！」

「え、ちょ、まってー」

などという声を聴きながら4階の窓から飛んだ

タアーン タアーン

おい、娘いるのに撃つてきてるぞ〜（泣）

マリアには当てないようにしてるのか全然あたらないな
ドラマシーンみたいに着地してそのまま逃げる

高所恐怖症なのか 気絶しかけてるな

屋根上から行くか、今日は二回目だな

「キャ〜〜〜〜〜〜〜」

お、おいそんなに暴れんなよ〜

落ちるだろ〜

何とかマフィアの声が届かないところまで来たな

今日はほんと疲れるな〜（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0890z/>

銃声のなかで

2011年12月3日13時14分発行